

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り



平成 26 年 9 月 19 日 (NO.31)

浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所

全国コミュニティ・スクール 研究大会 in 下関

全日程の最後を飾ったのは、全国の先進地区としてすでにCSの実践を行っている三鷹市・上越市・下関市のパネリストを招いて、CSの「現状と課題」、そして、「これからのCSと地域づくり」が交流されました。

パネルディスカッション PART1

テーマ：「コミュニティ・スクールの今！ひろがる未来！！」

【コーディネーター】：日渡 円 氏（兵庫教育大学大学院教授）

【パネリスト】：中野 敏明 氏（新潟県上越市教育委員会教育長）

江原 健二 氏（山口県長門市教育委員会教育長）

四柳千夏子 氏（東京都三鷹市三鷹中央学園CS委員会副会長）

中尾 友昭 氏（山口県下関市長）

【CSの現状と課題】

～三鷹中央学園CS委員会副委員長より～

現状①：学校経営等に対して、辛口の意見を述べるが、その分、地域・家庭が責任を持ち、一緒になって学校の課題解決へ協働している。

現状②：学校職員の意識の変革が見られる。

単に学校教育活動に支援をしていただくという意識

→ 地域・家庭と一緒に教育活動を行うという参画意識が醸成された。

課題①：同一学校内の教職員の意識に差がある。

直接的に携わっている職員は、CSの有効性や良さを認識しているものの、教員の負担感が多いと周囲の職員は懸念している。

課題②：CS委員の世代交代をどのようにしていくか。引き継いでいくか。

～下関市長より～

現状①：CSは地域分権の教育版として取り組んでいる。

現状②：CSは手段であり、子どもの健やかな成長と学力を向上するため仕組みである。

現状③：校長は責任をとる覚悟と経営ビジョンを持ち、地域の要望を聞きながら経営を行っていく必要がある。

現状④：行政的には、CSをより円滑に推進するための予算措置をしっかりとすることが大切である。a, 研修費 b, コーディネーターの配置費 c, 旅費 d, 会議運営費 等。

～上越市教育委員会教育長より～

現状①：現在CS導入が1,919校。平成28年度までには3,000校を目指している。

CSマイスターの派遣や教育再生会議等の提言で達成できると考えている。

課題①：すでにある制度や組織との違いを明確にし、CSとのかかわりを整理する必要がある。

課題②：首長の理解と教育長の実行力、そして、互いの関係・信頼が大切である。